

◀ 港 便 り ▶

思いつくまま「よこはま」(5)

社団法人横浜港振興協会 永 田 隆

横浜港の昭和5年(1930年)トリオというのをご存知でしょうか。

一つ目は、みなとみらい地区の石造りドック(横浜船渠第一号ドック)に保存・公開されている「帆船日本丸」。昭和5年(1930年)神戸市の川崎造船所で進水しました。竣工は3月31日。船は最初に海に浮かぶ進水日を誕生日になぞらえます。今年の1月27日に82回目の進水記念日を迎えました。初代日本丸は、昭和2年(1927年)3月に発生した鹿児島商船水産学校の練習船「霧島丸」の遭難を契機として建造され、当時の田中隆三文部大臣の「日本の海の王者にふさわしい船にしたい」というわが国の海運に寄せる期待を込めて「日本丸」と命名されたものです。(その日本丸と同年の2月14日に進水したのが「海王丸」。現在は、富山新港に保存・公開されています)日本丸では、総帆展帆・満船飾がそれぞれ月に1回以上行われています。百歳までは元気に保存できるよう頑張っています。



「写真提供：(公財)帆船日本丸記念財団」

二つ目は貨客船氷川丸。昭和5年(1930年)4月25日に横浜船渠(後の三菱重工横浜造船所)で竣工。ちなみに、進水は昭和4年(1929

年)。シアトル航路用に日本郵船が建造したもので、太平洋を横断して人と貨物を運びました。太平洋戦争前には、秩父宮ご夫妻、チャーリー・チャップリンをはじめ約1万人が乗船しています。船名は埼玉県大宮市(現さいたま市大宮区)の氷川神社に由来するものです。太平洋戦争時には、政府徴用船、病院船となり、終戦までに3回も触雷しましたが、沈没を免れています。横浜開港100周年記念事業として昭和36年(1961年)に山下公園前に係留され、氷川丸マリンタワー株式会社が管理をしていました。その後、日本郵船に管理が移管され、リニューアル工事を行って、平成20年(2008年)4月25日から現在の形で一般公開されています。

三つ目は山下公園。よく知られているように関東大震災の瓦礫の捨て場を復興工事で埋め立て、昭和5年(1930年)3月15日に開園しました。日本初の臨海公園にして臨港公園。昨年の大晦日(12月31日)には日本の復興を願う「HOPE」の文字をキャンドルで作り、東北の被災者にメッセージを送りました。(写真参照；上部は氷川丸)



2隻の船と臨海公園は、昭和の時代を生き抜いて、横浜の海から世界の海を見つめてきました。